令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
施設名	横浜能楽堂
内定額	10,254　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	横浜能楽堂企画公演「遊行の聖 弔いの心」	令和7年10月16日（木）	ランドマークホール
公-02	横浜能楽堂企画公演「復活！横浜の沖縄芝居」	令和7年12月7日（日）	鶴見公会堂
公-03	横浜狂言堂	令和7年6月8日（日） 令和8年2月8日（日）	港南公会堂、 港北区民文化センター ミズキーホール
公-04	ランドマーク狂言	令和8年3月11日（水）	ランドマークホール
公-05	横浜能楽堂企画公演「天神さまの芸能」	令和7年11月29日（土）	港南区民文化センター ひまわりの郷
人-01	バリアフリー能サポート研究会	令和7年4月20日（日） ～令和7年11月17日（月）	BUKATSUDOほか
普-01	普及公演「こども狂言堂」	令和7年8月2日（土）	戸塚区民文化センター さくらプラザ
普-02	こども狂言ワークショップ	令和7年8月2日（土） ～令和8年3月29日（日）	戸塚区民文化センター さくらプラザ、 久良岐棒舞台
普-03	先生のための狂言講座	令和7年8月2日（土）	戸塚区民文化センター さくらプラザ
普-04	横浜市芸術文化教育プラットフォーム	令和7年11月21日（金） ～令和8年1月27日（火）	横浜市立青葉台小学校、浦島小学校、 中川西中学校
普-05	18区つながる能楽プロジェクト	令和7年10月27日（月） ～令和7年12月20日（土）	横浜国立大学教育学部附属 特別支援学校、 神奈川県立金沢文庫
普-06	バリアフリー能楽体験	令和7年7月4日（金） ～令和7年11月24日（月・祝）	神奈川県ライトセンター、 障がい者スポーツ文化センター ラポール上大岡
普-07	体験講座「はじめまして」の能・狂言	令和7年5月12日（月） ～令和8年3月12日（木）	OTABISHO 横浜能楽堂
普-08	講座「能の身体　ダンスの身体」	令和8年1月12日（月・祝）	横浜赤レンガ倉庫1号館

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業		59	39	43
		公演事業	19	5	6
		（内、本助成対象事業本数）	9	5	5
		人材養成事業	6	4	5
		（内、本助成対象事業本数）	0	0	1
		普及啓発事業	34	30	32
		（内、本助成対象事業本数）	27	27	8
		共生社会事業			
		（内、本助成対象事業本数）			
		その他　内容：　記入してください			

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	121	0	0
	ホール名：本舞台　座席数：486席	121	0	0
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		33,963	22,800	28,654
		公演事業	8,387	1,800	1,784
		人材養成事業			131
		普及啓発事業	4,500	1,000	1,746
		共生社会事業			
		その他　内容：OTABISHO展示事業	21,076	20,000	24,993
	貸館事業入場者・参加者数		19,953	0	
	その他　内容：記入してください				
	計		53,916	22,800	28,654
開館日数					
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））					
施設の利用日数					
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）			0.0%	0.0%	0.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	7	17	7,078				7			
	共催・提携公演（※2）	2	2	858				2			
	貸館公演	12	14	5,008				12			
	計	21	33	12,944							
令和6年度	主催公演（※1）	2	2	1,414				2			
	共催・提携公演（※2）	5	5	564				5			
	貸館公演	0	0	0							
	計	7	7	1,978							
令和7年度	主催公演（※1）	4						4			
	共催・提携公演（※2）	2						2			
	貸館公演	0									
	計	6	0	0							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	横浜能楽堂企画公演「遊行の聖弔いの心」	目標値	252	80.0%	顧客の満足度	満足度が4.0以上（5点満点）を達成	
		実績値	212	67.3%			4.47
公-02	横浜能楽堂企画公演「復活！横浜の沖縄芝居」	目標値	240	80.0%	地元住民の参加率	アンケート回答者のうち30%以上	
		実績値	408	88.9%			33.70%
公-03	横浜狂言堂	目標値	657	77.2%	初めて横浜狂言堂を鑑賞した人の割合	アンケート回答者のうち20%以上	
		実績値	623	70.5%			20.35%
公-04	ランドマーク狂言	目標値	210	70.0%	初めて狂言を鑑賞した人の割合	アンケート回答者のうち35%以上	
		実績値	299	94.9%			29%
公-05	横浜能楽堂企画公演「天神さまの芸能」	目標値	245	79.8%	地元住民の参加率	アンケート回答者のうち30%以上	
		実績値	242	82.0%			71.50%
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
施設名	横浜能楽堂
内定額	10,254　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等)」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	横浜能楽堂企画公演「遊行の聖 弔いの心」	会場の空き状況の都合で、平日夜しか会場を押さえられず、集客には苦労した。地元の歴史や仏教と能・狂言との関わりを踏まえたプログラム作りや、会場の特性に合わせた演出などは、来場者から高い評価を得られ、意義のある公演となった。
公-02	横浜能楽堂企画公演「復活！横浜の沖縄芝居」	会場のある鶴見区のコミュニティと連携した広報を積極的に行い、地元から多くの来場者があったほか、本土で沖縄芝居が見られる貴重な機会ということで、近隣地域や遠方に住む琉球芸能ファンからも注目され。当初の見込みを大幅に超える来場者があった。
公-03	横浜狂言堂	初心者でも楽しみやすい狂言の公演ということをアピールし、会場や地域の町内会とも連携し広報を行った。2 月の港北区民文化センターでの公演は、天候が雪で当日来場者がやや少なくなったが、目標通りの約 20%が初めて狂言を鑑賞したとアンケートで回答し、狂言の普及に繋がった。
公-04	ランドマーク狂言	仕事帰りに手ごろな料金で狂言を鑑賞できることが功を奏し、チケットは完売した。昨年も来場したリピーターや、狂言ファンも来場したため、初めて狂言を鑑賞した割合は目標に届かなかったが、3 割近い方が、初めて狂言を鑑賞したと回答し、狂言の普及に繋がった。
公-05	横浜能楽堂企画公演「天神さまの芸能」	菅原道真公自作の木像がある永谷天満宮と連携し、奉納イベントを開催したほか、会場となる港南区を中心に広報を行ったことで、地元住民の参加率が高い公演となった。内容的にはやや初心者向けではなかったが、太宰府天満宮・宮司のお話などを入れることで、 天神伝説や芸能との関わりについて理解を深め、鑑賞をより楽しんでもらうことが出来た。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	①公演内容の満足度をアンケートで測定 ②劇場への支持･信頼度をアンケートで測定 ③公演来場者の SNS 等での反応を調査	①アンケートを実施した事業の公演内容の満足度平均が 4.0 以上（5 点満点）を達成 ②アンケートを実施した事業で、「横浜能楽堂の公演だから」と回答した割合を 25%以上を達成 ③SNS 等を調査し、概ね高評価を獲得	①アンケートを実施した 6 公演の満足度平均は、4.68 だった。 ②アンケートを実施した 6 公演の平均は、24.86%だった。 ③「平日だし遠いけど行って良かった。今回併せて披露された時宗の「薄念仏会」。足運びとかリズム、抑揚にいろいろな要素が見えて学びが多い」（遊行の聖　弔いの心）、「約 2 時間とコンパクトながら魅力がモリモリに詰まった夢のような時間だった…」（天神さまの芸能）など、SNS では概ね高評価を得られた。

人材養成事業	①ファシリテーター、リードユーザーによる評価 ②参加者の研修後の反応	①インタビューで概ね好評価を得る ②インタビューで概ね好評価を得る	①　「多方面の方々と能の歴史、バリアフリー能について情報共有し、参加者がそれぞれの専門性を十分に発揮し、利用者のニーズを十分にとらえて、音声ガイド作りの実践で、音声ガイド制作の礎になる考え方が研究できた貴重な機会になりました」との高い評価を得た。 ②　それぞれインクルーシブ分野における知識や経験値、立場の異なる職員であったが、「視覚に障がいのある方や、その支援の最前線にいる方のお話を直接うかがえたことがとても有益でした。これまで気づいていなかった前提や、無意識の思い込みに気づかされる場面が多く、自分のわかったつもりが揺さぶられる貴重な機会でした。」「お客様が何を求めているか」を改めて考え直し、実際にどう提供していけるかということを考えるプロセスは、ほか事業にも共通する重要なことだと再認識できました。」と、それぞれの参加者が必要な知識や意識を得ることができる機会となり、高い評価につながった。
普及啓発事業	①初めての参加者数をアンケートで測定 ②参加者の反応をアンケートで測定 ③共催施設・関連団体の反応を調査	①アンケートを実施した公演・講座で「初めて鑑賞した」「初めて参加した」と回答した割合が 20%以上を達成する ②アンケート回答者のうち「また見たい」「また参加したい」と回答した割合を 50%以上を達成する ③インタビューで概ね好評価を得る	①アンケートを実施した公演・講座で「初めて鑑賞した」「初めて参加した」と回答した平均割合は 36.2%だった。 ②アンケート回答者のうち「また見たい」「また参加したい」と回答した平均割合は 81.8%だった。 ③共催施設や関連団体からは、「また開催して欲しい」「今後も関係を継続した」などの意見が挙がり、高評価が得られた。
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	横浜能楽堂が改修工事中ということもあり、市内のホール、劇場等を借りて公演を実施した。必ずしも古典芸能の上演に適した会場でない場合もあったが、ホールの特性を活かした演出を施すなどして対応した。アンケートを実施した事業で、来場理由に「横浜能楽堂の公演だから」と回答したのは、平均は、24.86%で概ね目標通りだった。公演内容の満足度は、どの公演も目標を上回り、公演実施後の SNS での反応も概ね良好だったことから、観客が望む以上の創造性、企画性に富んだ公演を提供できたのではないかと評価する。

人材養成事業	
自己評価	視覚障がい者に向けた上演時の音声ガイドについて、能楽堂スタッフだけでなく、他の劇場のスタッフや能楽研究者、アートエデュケーター、ファシリテーター、視覚障がい当事者といった様々な立場の人が参加し、より「自分らしく楽しめる」ガイドについて、意見を出しあった。 参加者からは、「『お客様が何を求めているか』を改めて考え直し、実際にどう提供していけるかということを考えるプロセスは、ほか事業にも共通する重要なことだと再認識できました」「言葉遣いや言葉の時制など、細かい工夫点を学ぶことが出来てとても有意義だった。そもそも、音声ガイドの多面的な部分（能、音声ガイドのシステム、インクルーシブ）それぞれの専門家がかかわったことで、様々な角度から気づきを得ることが出来た」といった感想が寄せられ、能・狂言だけに止まらない、障がい者に向けたサポートについて、それぞれの立場からアップデートしていく機会を提供できた。得られた知見は各自が所属する部署のインクルーシブ事業のみならず、他館のインクルーシブ事業への協力の際にも活かされており、非常に有意義な取り組みとなった。

普及啓発事業	
自己評価	横浜能楽堂が休館中という状況を活かし、市内の文化・福祉関係の施設や団体と連携し、良好な関係を築きながら、能・狂言を気軽に親しんでもらう事業を実施した。会場の特性や実施時期などを考慮しながら、一般からこども、障がい者など様々な人々を対象とした事業を展開した。 アンケート結果では、初めて鑑賞・参加したと回答した率は、目標を上回ったほか、「また見たい」「また参加したい」と回答した人は全体の８割を超え、多くの方に能・狂言の魅力を伝えることが出来、また次の行動につながるような体験を提供できたと評価する。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
①地域の劇場、団体と連携した件数をカウント ②横浜ゆかりのアーティストの起用件数をカウント ③こども対象事業参加率をこどもチケットでの入場数から測定	①昨年度の 17 件以上を達成 ②昨年度の 11 件以上を達成 ③普及啓発事業１「こども狂言堂」でこどもの参加者率が昨年の 29.7%を上回る	①地域の劇場、団体と連携した件数は 25 件だった。 ②横浜ゆかりのアーティストの起用件数は 14 件だった。 ③こどもの参加率は 34.4%だった。

（※4）・（※5）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	横浜能楽堂休館中に伴い、市内の文化施設、福祉施設と連携しながら事業を開催した。地域の劇場、団体と連携した件数は 25 件となり、昨年度を上回り、内容についても、企画公演「天神さまの芸能」、「復活！横浜の沖縄芝居」、講座「能に映し出される「金沢」の中世」など地域の文化資源を活かしたものや、地域のニーズや実情を反映したものにすることが出来た。 またこどもなど次世代に向けた事業も積極的に行った。普及啓発事業１「こども狂言堂」のこどもの参加者率は昨年を上回ったほか、その他事業についてもこどもが参加する光景が多くみられ、地域の文化拠点としての機能を果たすことが出来た。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①若年層の参加者率 ②（こども、障がい者、認知症患者など）サポートが必要な参加者数	①公演事業でのアンケートで年齢が 20 代以下と回答した割合を前年（4.8%）以上を達成 ②普及啓発事業 6「バリアフリー能楽体験」で前年 29 名以上を達成	アンケートで年齢が 20 代以下と回答した割合は、4.81%だった。 ②「バリアフリー能楽体験」におけるサポートが必要な参加者数は 32 名だった。

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	能楽愛好者に向けた公演から、初心者でも楽しめる公演やワークショップ、こどもや障がい者を対象にした事業など、多様な人々に能・狂言の魅力を伝える事業を実施した。一部の公演では、台本の配布や、多言語での字幕解説の配信を行い、初めて鑑賞する方や、日本語を母国語としない人でも楽しめるような工夫も行った。公演事業の若年層の参加者率は、昨年から横ばいであったが、今年度は、愛好者に向けた企画性の高い事業を多く行ったことが影響している。また、普及・啓発事業では、一般を対象とした事業でも若年層の参加が多くみられるものもあり、事業全体では若年層の取り込みに成功したと言える。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①OTABISHO 横浜能楽堂の来場者アンケートで「横浜能楽堂を知らなかった」と回答した割合 ②OTABISHO 横浜能楽堂来場者の反応をアンケートで測定 ③外国人の来場者に向けた案内物の充実を作成した件数および、配布数で測定	①アンケート回答者の 25％以上が「横浜能楽堂を知らなかった」と回答 ②「もっと知りたくなった」「能楽堂に行ってみたくなった」などポジティブな反応を 10 件以上得る ③OTABISHO 横浜能楽堂パンフレット（英語版）を前年（929 部）以上配布	①アンケート回答者の内、「横浜能楽堂を知らなかった」と回答したのは 34.6％だった。 ②「能についての知識を得ることが出来て良かった」「フォトスポットもあり、家族で楽しめた。横浜能楽堂の改修が終わったら訪れたいと思う」など、ポジティブな反応は 30 件以上得られた。 ③OTABISHO 横浜能楽堂パンフレット（英語版）の配布部数は 520 部だった。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	横浜能楽堂改修工事に伴い、令和７年度についても、みなとみらい地区のランドマークプラザ内にオープンした OTABISHO 横浜能楽堂を拠点に活動を行った。観光客が多く訪れるショッピングセンター内の施設ということで、来訪者は能・狂言を観たことがない人が多く、アンケート回答者の内 25％以上が「横浜能楽堂を知らなかった」と回答したが、能面や舞台模型などを写真に撮ったり、解説パネルを読むなど、それぞれの観点で、能・狂言との接点を作られており、アンケート回答者からは、横浜能楽堂再開館への期待などポジティブな意見が多く寄せられた。英語版パンフレットの配布部数は昨年よりも下回ったが、今年度は、市内の国際交流施設などへの配布を行わなかったためである。OTABISHO 横浜能楽堂へは、外国人も多く訪れ、展示物と写真を撮ったり、グッズを購入するなどして、能・狂言に親しむ姿が見られた。 OTABISHO 横浜能楽堂での活動を通じて、多くの方々に能・狂言について知ってもらう機会を提供できたと考える。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
公演事業 01 企画公演「遊行の聖 弔いの心」では、関連事業として「ビジネスパーソンのための能楽講座」を開催。みなとみらい地区で働く就労者を主な対象に、平日の夜に設定し、能・狂言に関する基礎知識に始まり、歴史や実技、上演曲の能「実盛」について学んだ後、公演を鑑賞。鑑賞後は、能「実盛」のシテを演じた山井綱雄さんを交えて懇談会をおこなった。決して安くない参加費ではあったが、講座は募集開始後すぐに満席となった。参加者は積極的に質問をしたり、他の講座に参加するなどの行動が見られ、意欲的に能・狂言を知ろうとする姿勢が感じられた。 平日夜に桜木町から坂を上り、15 分かけて横浜能楽堂まで足を運んでもらうハードルが高く、これまでの講座は、土日の昼間に開催してきたが、場所を変え、参加しやすい環境をつくることで、新たな観客を獲得・育成する機会をつくることが出来た。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	入場料収入と文化芸術振興費補助金が事業収入の多くの割合を占めており、寄付金･協賛金等については殆ど獲得できていない。	広報担当を中心に各公演担当が広報を行い、集客に努めている。
目標(値)（※２）	事業で関係する企業などに寄附金・協賛金の提供を働きかける。 目標：寄付金・協賛金等の獲得２件	顧客への効率的な情報提供のため､横浜能楽堂公式 LINE 会員の登録者、インスタグラム登録者数を増やしたい。 目標：横浜能楽堂公式 LINE 登録者数を 700 名以上、インスタグラムフォロワー数 750 名以上
実績(値)	寄付金・協賛金等の獲得２件	横浜能楽堂公式 LINE 登録者数：967 名 インスタグラムフォロワー数：942 名
団体の自己評価	２件獲得の目標は達成することが出来た｡引き続き獲得していけるように努めていきたい。	定期的に情報を発信し、再開館に向けて登録者を増やすことが出来た。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	近隣施設との事業連携は行ってきたが、その他の市内の劇場・音楽堂との連携は限られていた。 現在は、横浜能楽堂が休館中ということもあり、事業実施に向けて他館との連携が重要な課題となる。	毎月モニタリングを行い、運営状況や課題を共有している。
目標(値)（※2）	事業実施に向けて、会場となる劇場・音楽堂等と協議を重ね、事業内容の検討、施設の先押さえ、広報協力などを依頼し、連携を深める。目標：連携数9件	
実績(値)	10件の劇場・音楽堂等と連携し、事業を実施した。	
団体の自己評価	休館を機に市内の劇場・音楽堂と連携を図ることができた。今後も連携を行っていく予定。	

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	芸術監督をはじめ、事業担当が配置されている。	支配人を配置し、劇場運営を統括している。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	プロデューサーを配置しているほか、専門人材研修を行い、人材の育成に努めている。	芸術監督、支配人、プロデューサーが配置され、一般職員も専門性に合わせて配置されている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	専門人材研修を行い、人材育成を図った。	

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	若年層の人材確保が行われている。	女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	仕事と育児・介護等の両立支援制度が整備されている。	コンプライアンス研修を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	ハラスメント防止対策が行われている。	適切な契約書が交わされている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
昨年度に続き、今年度も横浜能楽堂が休館のため、市内の文化施設や福祉施設、教育施設などを会場として事業を実施した。能・狂言は能舞台で演じられてこそ、その本当の魅力を伝えることが出来るという面はあるが、プログラム内容や演出などを工夫することで、バリエーション豊かな公演事業を実施することが出来た。人材育成事業については、バリアフリー能サポート研究会を実施した。音声ガイドを題材にそれぞれの立場から議論・対話を行いながら、障がい当事者が「自分らしく楽しめる」ガイドを探り、インクルーシブに関する見識を深めることが出来た。参加者は、それぞれが所属する部署でのインクルーシブ事業でその成果を活かしたほか、他の劇場へノウハウの提供も行い、インクルーシブ人材の育成につながった。 普及・啓発事業では、他施設との連携ということに重点を置き、能・狂言やその他古典芸能に関する公演、講座、ワークショップなどを実施した。コンテンポラリーダンスの専門施設である横浜赤レンガ倉庫 1 号館と連携した講座「能の身体　ダンスの身体」、県立金沢文庫と連携した講座「能に映し出される「金沢」の中世」など、各施設の専門性を活かした事業を多く実施し、新たな観客の獲得や、施設同士の関係性を深めることに繋がった。

備考